

Tokyo Union Theological Seminary



東京神學大學



あなたがたは行って、すべての

福音
gospel

教会
church

伝道
mission

現代という「不安な時代」に、 確かな希望と平安を伝える

大震災や原子力発電所の事故、それに世界的な経済不況のために、現代は「不安な時代」です。それだけに希望を失わず、忍耐をもって、しかも冷静に事に対処する生き方が求められています。東京神学大学は、そうした人生の基盤を主イエス・キリストの中に見出し、多くの人々がキリストの福音によって平安と希望に生きるように、福音を伝える伝道者・牧師を育て、世に送り出しています。この使命のために、広い視野をもって神学の研究に努め、高度な教育を心がけています。

2011年の3月11日に激震が襲ったのは、本学の卒業式の最中でした。大震災で今なお悲しみと労苦の中に多くの方がおりますが、本学の幾人もの卒業生が震災被災地で伝道と牧会に従事しています。キリスト教会はみなできるかぎり被災した方々と共に歩いていこうと願っています。本学の卒業生には、全国諸教会の牧師として働いている人だけでなく、キリスト教学校で聖書を教える教師として、あるいはキリスト教大学のチャプレンとして、青年たちを指導している人もいます。キリスト教病院のチャプ

民をわたしの弟子にしなさい

マタイによる福音書 28 章 19 節

召命
vocation

献身
self-dedication

レンとして、病む人を支えている人もいます。
本学の学問的ならびに教育的な水準は、国際的にどこに出してもひけをとらないものです。組織神学専攻と聖書神学専攻の両方で博士の学位を出しています。さらに本学卒業の牧師や教師たち、そして教授たちの実績がこの大学の水準の高さを示しています。洗礼を受け、献身の志を与えられた方々が入学してこられるのをお待ちしております。



東京神学大学
学長 近藤勝彦

CONTENTS

日本伝道の歩みと東京神学大学	4
震災の中への召命、被災地を離れる召命 (卒業生インタビュー)	5
伝道者を育てる東京神学大学	8
神学の4つの専門分野	10
東京神学大学開講科目一覧	12
Featured Subject 旧約聖書釈義	13
東京神学大学の春夏秋冬	14
主の招きに応じて(神学生座談会)	16
東京神学大学後援会の働き	19

日本伝道の歩みと東京神学大学

教授 棚村重行（歴史神学）

「日本の教会と神学校はなぜ合同したがるのですか？」これは何年か前本学を訪問した韓国の一神学大学の学生たちが、本学に合流した多様な旧教派神学校の系統図を見て発した驚きの問いです。一つの答えは様々な教会合同運動（エキュメニズム）を主動機とし、教派を建設する動機も絡み織りなすドラマ——これが歴史的に見た日本伝道の脚本と言えましょう。

三段跳び式に言えば、ホップ段階の明治初期、信仰復興の福音を伝えた日本基督公会という19世紀の合同運動が、教派形成と対抗して移植されました。宣教師ブラウンの神学塾は本学の遠く遙かなる一源流です。

ステップ段階は、20世紀エキュメニズムの日本基督教連盟をエンジンとした教派の協力合同運動の時期です。この頃二つの神学教育機関、東京神学社と明治学院神学部が合同し、日本神学校が誕生しました（1930年）。

このステップの上に、第二次世界大戦時の国家による宗教団体法の超突風も加わり、当時のプロテスタント30余派は多教派間合同教会、日本基督教団へジャンプしました（1941年）。この教団の教職養成校、日本基督教神学専門学校（1944年）を経て、戦後の1949年に新制東京神学大学が誕生したわけです。

以来、聖書と歴史的な信仰告白の資産を継承し、「教団信仰告白」を規準とした、健全な福音の伝道と諸教会に開かれた神学教育、教団形成の更なるジャンプに努める神学大学——これが本学の基本姿勢です。



東京神学社の学生と教師



かつて使われていたパンフレット

東京神学大学開校までの歩み

1859 (安政6) 年	プロテスタント諸教会の宣教師たちが日本で宣教を開始
1872 (明治5) 年	横浜に最初の教会「日本基督公会」設立
1873 (明治6) 年	宣教師のS.ブラウンが横浜に最初の神学塾「ブラウン塾」を開講。1877年「東京一致神学校」（のちの明治学院）開校
1904 (明治37) 年	牧師・植村正久により「東京神学社」設立
1930 (昭和5) 年	本学の前身となる「日本神学校」が設立され、「明治学院神学部」はここに合流
1941 (昭和16) 年	プロテスタント諸教派の合同教団として日本基督教団設立
1943 (昭和18) 年	教派ごとに分かれていた神学校が「日本東部神学校」「日本西部神学校」「日本女子神学校」の3校に統合。さらに1944 (昭和19) 年、この3校が「日本基督教神学専門学校」として合流
1945 (昭和20) 年	敗戦
1949 (昭和24) 年	日本基督教団立の伝道者養成機関として新制大学「東京神学大学」開校

東京神学大学の諸活動

【公開夜間神学講座】

1947年以来、信徒、役員、教会学校教師の教育のために、本学の教授を中心としたすぐれた講師陣による公開夜間神学講座が行われています。日本基督教団銀座教会にて、毎週月・金曜日に開講されています。

【東京神学大学総合研究所】

総合研究所は、日本伝道研究所とアジア伝道研究所から成る学術的な共同研究の拠点です。それぞれ講演会、セミナー、研修旅行などを実施しています。

【刊行物】

上記の総合研究所からは、研究論文や講演を載せた『伝道と神学』が毎年刊行されます。その他、神学雑誌『神学』、東神大パンフレットなどを刊行しています。特に東神大パンフレットは、諸教会における信徒教育のテキストとしても広く用いられています。

震災の中への召命、被災地を離れる召命

2011年3月11日午後2時46分。

東京神学大学の礼拝堂では、卒業式が執り行われており、近藤学長の告辞の最中であった。この日をきっかけに、卒業直後の伝道師も、経験ある牧師も、それぞれが、世の中がどうあっても、遣わされた地で福音を述べ伝える者としての召命を、心にかみしめることになった。被災地に関わる3人の卒業生に、震災のただ中における三者三様の召命について語っていただいた。

嘆きの場としての教会で御言葉を体験する

福島県での伝道、 迷いなく新任地へ

私は福島県出身ですので、2011年4月から福島県いわき市の磐城教会に赴任することが決まった時から、故郷に福音を伝える喜びに期待をふくらませていました。ですから、大震災に続いて原発事故が起きた時も、当初は磐城教会と連絡がとれずに心配しましたが、赴任することに迷いはありませんでした。3月末にライフラインが回復したことを確認し、31日、高速バスを使って、前任地の藤沢（神奈川県）から磐城教会に向かいました。

磐城教会の建物には大きな被害はなく、原子力発電所からは南へ43.5kmと微妙な距離でした。しかし、教会のコミュニティは深く傷ついていました。震災直後は、流通が寸断されていたため、食糧などの物資が途絶える恐怖の中、人々は放射性物質の情報に戸惑い、避難すべきか、留まるべきかなど、本音で話すことができなくなっていました。葛藤の内に教会は散らされ、礼拝を行うことができませんでした。

共同体として 共に社会の痛みを受けとめる

私を迎えてくださった教会員の皆さんは、落ち着いているように見受けられました。しかし、実は必死に立っていたのでしょう。地域にキリスト者は多くはありません。家族の中で自分だけという人もいます。キリスト者として絶望する姿は見せられない、信仰を証ししなければと思うあまり、抱えている不安や悩み、悲しみを言葉にする

ことができずにいるようでした。礼拝とは、そういった言葉にできない思いを吸収し、拭い取る営みなのではないでしょうか。

4月最初の礼拝には、大きなプレッシャーを感じました。初めは、希望の言葉を、慰めや励ましを語らねばならないと思っていたのですが、黙想の中で示されたのは、学生時代に専攻し、繰り返し読んできた旧約聖書のイザヤ書の40～66章や詩編の御言葉でした。平和がないのに平和を語ってもむなし（エレミヤ6:14）、偽預言者になってはいけないと思いました。教会には希望も大切ですが、その時は、御言葉によって共に嘆くことが必要だったのです。

礼拝で御言葉に心を合わせる時、私自身、教会の皆さんと共に御言葉を体験しました。具体的に何がどう変わったとは言えないのですが、やはりこの礼拝が教会員の皆さんにも、私にも救いになりました。

いわき市では避難者のための仮設住宅が作られる一方で、県外へと転出する人もいます。特に放射能に対する捉え方には、家族の年齢層や考え方でも温度差があり、それが人々の容易に口に出せない悩みや痛みの原因となっているように思います。

しかし、礼拝を通して共に嘆く機会を得た教会は、共同体として社会の現状、人々の痛みを受けとめるようになったと感じます。現在は、併設する幼稚園の園庭の除染を、教会員も職員や園児の保護者と共に進めています。また、教会は豊かな樹木に囲まれてい

たのですが、木々に蓄積された放射性物質の、子どもたちへの影響を除去するため、そのうちの多くを伐採することで同意しました。

礼拝で神さまの言葉を受け取り、それを共に分かち合うことを「御言葉の経験」と言いますが、牧師の働きはその営みに奉仕することです。礼拝に集う方々が、本当に御言葉を体験しているのか。準備には苦労も不安も伴いますが、しかし、私の思いを超えて働く神さまの道具として用いられることの喜びを、今、深く感じています。



日本基督教団 磐城教会

上竹 裕子牧師

(うえたけ ゆうこ)

東北学院大学文学部キリスト教学科卒業後、東京神学大学大学院入学。2008年に修了後、日本基督教団藤沢教会において3年間伝道師として奉職。2010年秋、牧師按手。2011年4月より現任地へ。

上竹牧師の1週間……………

日	主日礼拝、役員会（月1回）
月	週報準備、HP更新、説教準備
火	説教準備
水	幼稚園礼拝、聖書研究祈禱会、説教準備
木	聖書に聴く会（月1回 幼稚園保護者対象）、説教準備
金	幼稚園お誕生会（毎月第1金曜）、説教準備
土	週報印刷、説教作成

*前月の最後の日曜日に翌月の説教題、讃美歌を決める。

真の心の拠り所を示す教会として



日本基督教団 石巻山城町教会

関川 祐一郎伝道師

(せきかわ ゆういちろう)

成蹊大学文学部現代社会学科を卒業後、2007年東京神学大学3年次編入学。2011年3月東京神学大学大学院を修了し、同年4月より現任地へ。

命がけで

福音を伝えることが現実に

私は、神学校を巣立つその日に、東京神学大学の礼拝堂で地震を体験しました。震源地が宮城県沖と聞き、4月からの赴任先である石巻山城町教会のことが、真っ先に思い浮かびました。しかし、焦って訪ねても、かえって迷惑になるのではないかとも思い、予定通り3月30日に石巻に向かいました。

到着して、高台から町を見下ろした時、聖書の中の伝道者たちの姿が、リアルに心に浮かんできました。伝道者になることは、職業を選ぶのとは違う。神さまに遣わされ、命がけで福音を伝えていくことだと頭では考えていたのですが、無惨に破壊された町に入ることは、まさに「命がけ」という言葉そのもの。何とか気持ちを奮い立たせたいとは思いましたが、正直言って、圧倒的な自然の破壊力の前に、身の縮む

思いでした。さらに「震災当日と一緒に体験していない、外から来た私の言葉に説得力があるのか、人々に受け入れてもらえるのか」と悩み、迷いもありました。

語る側も、聞く側も、御言葉に渴いていた

当初、前任の鈴木牧師・蓑牧師は、私と入れ換えに転任される予定でした。しかし、それを延期して必死に救援活動を続け、またその中で私を教会員や町の人々に紹介してくださいました。そのうちに心に抱いていた恐れや迷いは薄れ、そして、自分自身が何よりも御言葉に渴き、求めていることに気づいたのです。

初めて説教を担当する礼拝が近づいてきた時には、「私の人生経験は少ない。だから、この場で私という人間に語れることはない。東神大の4年間で学んだことに従おう」と、心が決まっていました。それはすなわち、純粹に聖書の御言葉を聴き、それを宣べ伝えることに尽きます。神さまを求めて礼拝に集う人々と共に、私自身も御言葉を聴きつつ御言葉を伝えること、そのことに集中するしかないと思いました。

一方で、被災地の教会として地域に何をすべきかを考えました。震災ボランティアの受け入れやチャリティコンサートを開くことなども重要です。しかし、何よりも礼拝が大切だと確信させられたこ

とがありました。それは、ある老婦人の姿です。その方は、震災直後1日3本しかないバスに乗り、1時間半もかけて教会に通い、礼拝出席を無上の喜びとしていらっしゃいました。このことから、礼拝を中心に据え、御言葉を伝えながら教会を形成していくことの他はないと思いました。

主の道を指し示す教会としてゆるぎなく

ある時、「震災で失われたものが元に戻るように」と祈りの中で言葉にしたところ、礼拝後に求道者の方から「自分は全てを失ったが、戻りたいとは思わない。ゼロから出発するしかないのだ。新しく進めるように祈ってほしい」と言われました。それぞれの方の思いは、私にはわかりません。でも、こうした言葉からも教会への期待を感じます。

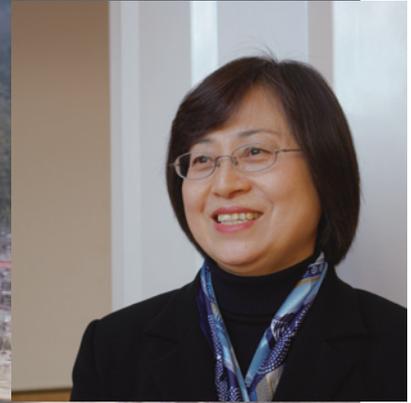
まだまだ復興への道は遠く、人々の苦難は続きます。でも、その中で真の心の拠り所とは何か。教会は、それをはっきりと示すことのできる場でありたいのです。痛みも悲しみも消えることはありませんが、ここには希望がある、と。



関川伝道師の1週間……

日	主日礼拝、壮年会、婦人会、祈禱会など
月	休日
火	聖書研究準備、説教準備
水	聖書研究祈禱会、説教準備、授業準備
木	東北学院中学校で中学3年生の聖書の授業を担当(1時限~5時限)
金	長老会、教会清掃、説教準備
土	説教作成

被災地を離れて引き裂かれた心を、 主に救われて



日本基督教団 森小路教会
鈴木 裊 善姫牧師

(すずき べー そんひ)

韓国からの留学生として1993年4月東京神学大学に入学。1999年3月東京神学大学大学院を修了。日本基督教団登米教会を経て2003年から2011年春まで石巻山城町教会に夫の鈴木淳一牧師と共に奉職。2011年4月より現任地へ。

葛藤を乗り越え、異動を決めた

韓国・ソウル育ちの私は、世界宣教の夢を持って東京神学大学に留学し、そこで同級生の鈴木淳一神学生と出会って結婚しました。卒業後に伝道者として一緒に派遣された東北の町で、人生で初めて地方ならではの豊かさとしら楽しさを味わいました。最初の頃は、奥ゆかしく、感情をあまり表さない人々に溶け込めずにいました。しかし、ある時、祈りの中で「自分がよく生きることが大切」と示され、まずは石巻での生活をしよう、英会話サークル、絵画教室、町内会行事などに積極的に参加し始めたことがきっかけで、次第に友人が増えていきました。すると礼拝出席者も、家庭訪問の受け入れ先も増え、閉塞感を感じていた石巻が、安住の地のように思われました。

そのような生活が8年目を迎える頃、いつの間にか教会員たちに甘えている自分を見ました。居心地が良くなって、緊張感を失い、何でも許されるような気がしてきたのです。「このままでいいのか」という問いが生まれました。また、教会の長老たちが健在の今なら、新しい牧師を迎えても、牧師をサポートしつつ教会をさらに発展させられる。しかし、この時期を逃すと、新牧師の招聘は教会にとって大きな負担となるだろう。このまま居続けていいのか、教会のためにも決断すべきなのではないかとの思いが与えられました。

石巻を離れる決意をするまでには、夫婦で何度も祈り、葛藤を乗り越える必要がありました。教会の方々に伝え

ると、最初は非常に驚かれましたが、最終的には私たちの決断を神さまによるものと理解し、祝福してくれました。

悲惨な現実が聖書の言葉とぶつかる

震災当日、私は東北教区の活動を終え、夫と一緒に仙台市街地にいました。激しい揺れの後、何としても教会へ戻らねばと車を進めたのですが、津波に追われ、途中の避難所に3泊し、石巻に戻ったのは震災から4日目。幸いなことに、高台にある教会は無事でした。

震災後の数週間、教会員の安否を確認したり、届いた物資を仕分けして配ったり、昼間はとにかく働きに働きました。でも夜になると、ただただ涙がこぼれるばかり。祈りの言葉も浮かばない。聖書を開いても、その言葉が現実とぶつかってしまう。一面の破壊、悲しみ、苦しみに対する答えを、どこにも見つけられませんでした。

しかし、後任の先生も来てくださり、また、少しずつ町が落ち着きを取り戻し始めていたので、後ろ髪をひかれる思いで、春からの赴任先だった大阪に、4月19日に旅立ちました。

我々の試練の中、 共におられる主イエス

ところが、大阪に着いてから急に気持ち沈み始めました。最初は単なる疲れかと思っていたのですが、やがて牧師としての自信を失い、疲れ果て、祈りの言葉といえば「主の御元に行きたい、ただ深く永遠に眠りたい」と繰り返すばかりでした。

そんなある日、一人横になっていたら、気配を感じたのです。津波に流されたようなボロボロの姿で、そしてただ、私の横にたたずんでいらっしやる方がいる。夢とは違う、不思議な感覚でした。十字架の上で「エリ、エリ、レマ、サバクタニ（わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか）」と呼ばれるイエスさまでした。ふと、心を疲れさせていた複雑な固いものが薄らいでいくのを感じました。無力でも生きていることには意味がある、私は生かされていると思えたのです。

しばらくして、私は、自分の震災体験を初めて教会の人々と分かち合うことができました。ようやくその時、「神さまが、私をここに遣わされた」と確信しました。そして、この試練の意味をすべて知ることも理解することはできませんが、たとえ答えがなくても、共におられる主にすべてを委ねて歩んでいきたいと思いました。大阪での新しい仲間と共に、そして離れていても、私たちは石巻と共にあります。

鈴木裊牧師の1週間……

日	日曜学校、主日礼拝、教師会、青年会、婦人会など
月	休日（牧師会が入ることもある）
火	聖書研究祈祷会準備、礼拝欠席者への配慮（電話や手紙など）
水	聖書研究祈祷会（午前、午後）、週報準備
木	訪問、来客など
金	教会堂清掃、事務作業など
土	週報仕上げ、説教作成

伝道者を育てる東京神学大学

1 全員が伝道者を目指す“召命共同体”

東京神学大学の学生は自らの学びの場をしばしば“召命共同体”と称します。これは、本学に集う者は学生も教師も神の呼び出しに応えるために、常に自らの召命を神の前に問いつつ、授業と研究はもちろん、毎日の礼拝やクラスごとの祈禱会を通して、生きた神学の研鑽に励んでいるからです。そのため入学に際しては、“召命”が厳しく問われます。学びへの興味、欲求だけでなく、福音の伝道者として神に召されているのか。キリストの血を代価として罪から買い取られたことを心に刻み、これまでの自分を捨て去って主イエス・キリストに献身する決意があるかどうかという問いです。伝道者を目指して神学を追求するには、学問を究める理性と神と向き合う霊性がひとつになることが大切だからです。



2 教会による教会のための合同神学校

東京神学大学は、1949年に日本基督教団立の新制大学としてスタートしました。しかし、そこに至るまでの歴史は古く、明治初期のブラウン塾に端を発し、多くのプロテスタント諸教派の神学校が合流してできた合同神学校（ユニオン・セミナリー）です。神学教育機関として各神学校の伝統を引き継ぎつつ、日本のプロテスタント諸教会が総力を注いで育んだ高度な神学教育を提供しています。

「教会による、教会のための大学」と呼ばれるのは、神学生の必要経費の約半分は全国各地の教会からの献金で支えられているからです。諸教会の推薦を受けて入学し、卒業後は、ほとんどの場合、これら諸教会に派遣されるためです。

3 教会だけでなくキリスト教学校を通して伝道する

キリスト教学校に派遣されて若い魂に福音を語ることも、“伝道者”や“牧師”の働きです。本学の大切な使命の一つとして、プロテスタントのキリスト教主義中学校、高等学校における宗教科・聖書科の教師（教務教師）を養成することも挙げられます。本学では、通常の神学教育プログラムと並行して教育職員免許状取得のための課程があり、これまでも多くの教師を送り出してきました。彼らの学校での働きの中からも、次世代を担う多くの受洗者、献身者が起こされています。



山梨英和中学校・高等学校 聖書科教諭 穴戸尚子先生
(1992年東京神学大学大学院修了)

その他の特徴

神学専門図書館

東京神学大学の神学専門図書館は、古今東西のキリスト教文献およそ10万冊（洋書約6万冊、和漢書など約4万冊）を収蔵し、学内のみならず、学外の研究者にも広く利用されています。

徹底した少人数教育

学部および大学院の在籍学生数は120名前後で、教師と学生の比率はおおよそ1:9。この恵まれた環境の中で、教師と学生はお互いに深く知り合い、交わりながら共に学びます。

留学生

全学生のうち約10%が留学生で、韓国と中国の出身者が多くを占めます。「母国だけでなく、日本で伝道したい」という彼らの熱意は、日本人学生にも大きな刺激となっています。

大学院まで一貫したプログラム

学部1年からは6年間、 学部3年からは4年間

キリスト教の伝道者として整えられるためには、充実した学びが必要です。そのため、本学では、学部から大学院までを一貫した神学教育プログラムとして提供しています。このため、ほとんどの学生が、学部1年から入学した場合は、学部4年間と大学院2年間の計6年間、学部3年から編入学した場合（大学卒業者の場合）は、学部2年間と大学院2年間の計4年間かけて神学を学びます。

教育職員免許状(宗教)の 取得が可能

本学の教職課程は1954年に設けられ、今日まで多くの優れた聖書科教師を輩出してきました。免許状は、教会付属幼稚園の園長となる際にも有効に用いられています。さらに、免許状を取得した卒業生の多くは、教会と良い関係を築き上げ、伝道に貢献するだけでなく、キリスト教教育を通して、公教育にも貢献してきました。本学の教職課程は、キリスト教主義学校において教育と伝道の業に励みつつ、建学の精神を実質的に担う教師を養成することを目標としています。

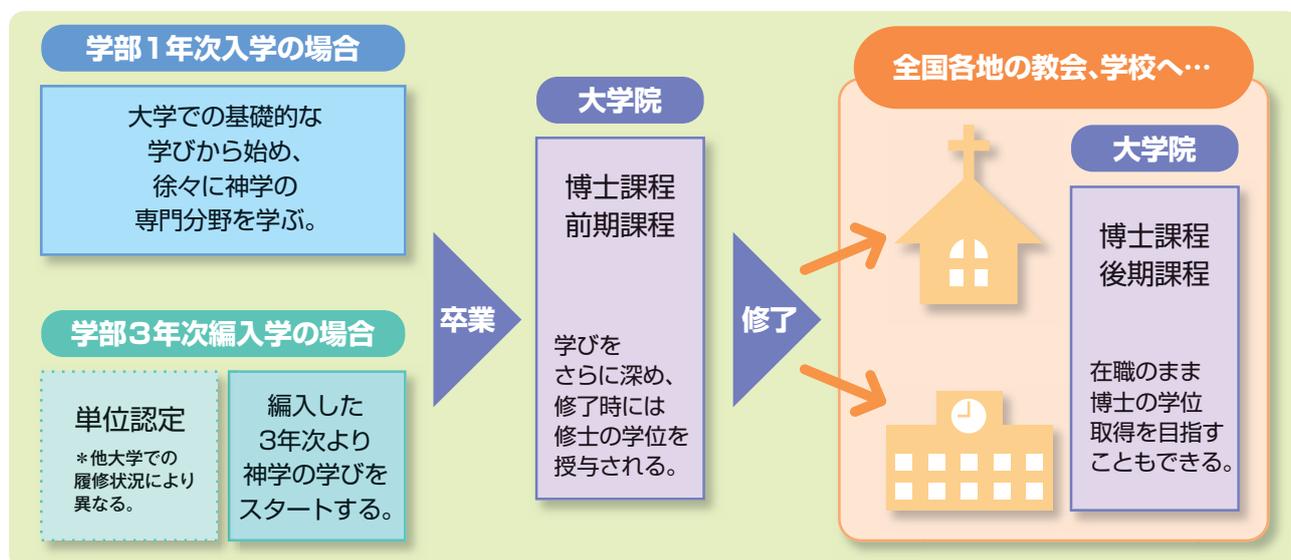
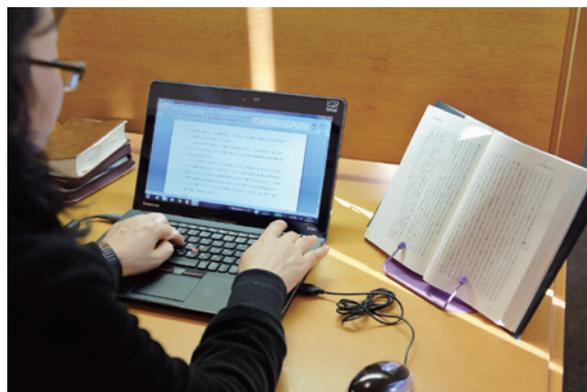
- ・中学校教諭一種免許状（宗教）
- ・高等学校教諭一種免許状（宗教）
- ・中学校教諭専修免許状（宗教）
- ・高等学校教諭専修免許状（宗教）

神学の学びと教会生活の両方で、 伝道者として整えられる

本学は「神学校と教会は車の両輪である」という理念を掲げています。そのため神学生にとって教会生活は、大学での学びと並行する重要なものです。神学生はそれぞれの出席教会の礼拝に加わり、奉仕し、交わりの時を持ちつつ、牧師の指導のもと、教会に仕えることを学びます。さらに、神学校のプログラムとして学部4年次、大学院1年次に「夏期伝道実習」があり、全国各地の教会に遣わされて約4週間の伝道実習を体験します。

博士課程後期課程に 長期履修学生制度を新設

長期履修学生制度は、博士課程前期課程を修了し、牧師や聖書科教師として働いている方を対象に、2012年度に設けられました。標準修業年限（3年）を超え、一定の期間にわたり計画的に後期課程での学び・研究をすることができ、在職のまま博士の学位取得を目指すことが可能です。



聖書の成立を知り、解釈を学ぶ

聖書神学

●聖書に、何が伝えられているのか

聖書学 / 聖書神学とは、私たちの礼拝の中で朗読される聖書に、何が伝えられているかを解明する学問です。説教は、教会によってたてられた説教者が、聖書に基づいて語るときに、神の言葉として聞かれます。説教者が自分の思いを語るのではなく、聖書が証しするキリスト御自ら語ってくださいます。

●勝手な読みこみを批判し、吟味する学問

しかしどのようにして、説教者の勝手な読みこみと、聖書それ自体が聖霊によって証言する主の御心を聞き分けることができるのでしょうか。聖書学 / 聖書神学は、聖書のテキストを、それが語られた歴史の中に戻し、本来どのような歴史の中で、何を告げようとしたものなのかを解明します。またそのテキストが、どのように伝えられ、解釈されてきたかを学びます。それによって、私たちの読みを批判し、吟味するのです。学んだ人は、聖書の成立や伝承の歴史を知り、釈義の手法を身につけ、語学、文献学、文学、歴史学、考古学といった財産を得ることになります。



大住 雄一
(おおすみ ゆういち)

- ① 1983年東神大大学院卒。独バーテル神学大学卒(神学博士)。日本基督教団正教師。1990年に着任、現在、教授。
- ② トーラーの解釈。旧約を読むと、律法は人を縛るものではなく、喜びであり、恵みとして讃美されています。律法とは何でしょう。教会でもその恵みを共に味わいたい。その恵みを探る研究です。
- ③ 旧約聖書神学、旧約聖書原典釈義など。



小友 聡
(おとも さとし)

- ① 1986年東神大大学院卒。独バーテル神学大学卒(神学博士)。日本基督教団正教師。1999年着任、現在、教授。
- ② 旧約聖書およびユダヤ教の黙示思想など。旧約聖書の中で後期の文学が研究領域。コヘレトの言葉やダニエル書など周辺の文書から旧約(ユダヤ教)の思想や倫理を探求しています。コヘレトの言葉と黙示思想の関係に関心があります。
- ③ 旧約聖書神学、旧約聖書原典釈義など。



中野 実
(なかのみのる)

- ① 1987年東神大大学院卒。米クレアumont大学院大学宗教学部博士課程卒(哲学博士)。日本基督教団正教師。2001年着任、現在、教授。
- ② これまで信仰と歴史の関係に神学的関心を抱きつつ、史的イエス研究、福音書研究に従事。現在、ヘブライ書の研究も開始し、註解書を執筆中です。
- ③ 新約聖書神学、新約聖書学特講など。



焼山 満里子
(やきやま まりこ)

- ① 1997年東神大大学院卒。米クレアumont大学院大学宗教学部博士課程卒(哲学博士)。日本基督教団正教師。2007年着任、現在、准教授。
- ② 新約聖書、特にパウロ研究。パウロの伝道、教会形成について、またパウロ教会を中心とした初期キリスト教思想形成を研究しています。
- ③ 新約聖書神学、新約聖書釈義など。

神の真理を明らかに表明し、聖名を讃美する

組織神学

●教義学を中心に、倫理学、弁証学を含む

組織神学は、神の恵みの真理をできる限り深く、責任的に証言しようとする学問です。聖書の証言に基づき、神の啓示により、神とその御業を語る「教義学」、教会とキリスト者の具体的な生活の道を探求する「倫理学」、人間、歴史、文明の文脈で福音の真理を語る「弁証学」が含まれます。組織神学は、それら相互の関連をもって一貫した整合的筋道を明らかにしようと努力します。

●教会とキリスト者を支えて、神を讃美する

神学は人間の業ですから、誰が試みた神学も完全ではありません。“より深く、より明らかに”神の真理に応えようと試み続けられるものです。そのようにして人類に「世の光」として神の真理を伝え、教会とキリスト者に仕え、神の聖名を讃美します。組織神学は素晴らしい学問です。



近藤 勝彦
(こんどう かつひこ)

- ① 1970年東神大大学院卒。独チュービンゲン大学神学部博士課程卒(神学博士)。日本基督教団正教師。1978年に着任し、現在、教授。
- ② 教義学の関心として拙著「啓示と三位一体」に続く「贖罪論とその周辺」に、また同じく「キリスト教倫理学」に続いて、人間、歴史、文明の文脈における「キリスト教弁証学」を著述することに関心を持っています。
- ③ 組織神学(教義学)、組織神学特講など。



芳賀 力
(はがつとむ)

- ① 1979年東神大大学院卒。独ハイデルベルク大学神学部博士課程卒(神学博士)。日本基督教団正教師。1987年着任、現在、教授。
- ② キリスト教組織神学(教義学、倫理学、弁証学)。現在『神学の小径―啓示への問い』で、キリスト教信仰の新しい体系的考察に取り組んでいます。物語る教会を土台にした教会の教え(教理)の再構築です。
- ③ 組織神学、組織神学演習など。



神代 真砂実
(こうじろ まさみ)

- ① 1987年東神大大学院卒。英アバディーン大学神学部博士課程卒(哲学博士)。日本基督教団正教師。1998年着任、現在、教授。
- ② 教義学、特にカール・バルトの神学思想。キリスト教の信仰内容を体系的に関連づけたり、現代社会とキリスト教との関係を考える分野が専門です。「ミステリとキリスト教」ということさえ扱えます!
- ③ 神学通論、組織神学、組織神学演習など。



2000年の諸教会の歴史を学ぶ

歴史神学

●歴史神学／教会史とは

歴史神学／教会史とは、歴史学という学問的フェイ
ンダーを覗き、例えば2000年にわたり世界史道路
を走行してきたキリスト教諸教会バスの信仰的活動の
歩みと、それらの信仰・実践の総資産を撮影し点検す
る学科です。それによって、現代教会の今後の形成の
ために具体的な諸指針を学ぶためです。

●古代から宗教改革を経て現代まで

学部では、古代から現代日本までの教会の歩みを辿
る教会史Ⅰ～Ⅴ、教理史（選択）、世界と日本の宗教史、
ラテン語（選択）などを学びます。大学院では、古代
から現代までの欧米、日本の教会の教理史、神学思想
史、霊的生活史などの科目が開講され、学部での学び
が更に深められるようコースが用意されています。



棚村 重行
(たなむら しげゆき)

- ①1977年東神大大学院卒。米シカゴ大学神学部博士課程卒（哲学博士）。日本基督教団正教師。1993年着任、現在、教授。
- ②19世紀アメリカ神学思想史、19世紀日本プロテスタント神学思想史など。2009年に「二つの福音は波瀾を越えて」を出版しました。霊的生活史では、三位一体の神の像とその回復を主題とし、学びを続けています。
- ③教会史、教会史特講など。



関川 泰寛
(せきかわ やすひろ)

- ①英エディンバラ大学神学部卒。1983年東神大大学院修士課程卒（神学修士）。日本基督教団正教師。1996年着任、現在、教授。
- ②古代教会史、教父学など。古代の教会史・教理史の研究をしています。4世紀の正統と異端の論争、教理と礼拝や霊性との関係、キリスト論や三一論の形成など。主著に「アタナシオス神学の研究」があります。
- ③教会史、教理史演習など。



牧師になるための実践的な学び

実践神学

●神の実践に参加するために

実践神学とは、もともと「牧者の学」「司牧学」と呼ばれていました。現在は「神の実践」すなわち「神の救済行動」を主題とすることを明確にするために「実践神学」と呼んでいます。牧師のつとめは、生きて働かれる「神の実践」に参加させていただくことです。「神の実践」とは「神の救済の御わざ」です。神の救済行動の中で人間が神の道具として用いられるために「説教」「礼拝学」「牧会学」「キリスト教教育学」「教会の法と制度」の学びが必要になります。

●召命と自己吟味の課題も

神が主導権をとってくださる時、人間が＜牧者・羊飼＞としてたてられ、神に用いられる奇跡がおこります。一人の人間が＜牧師＞とされる「神の召命」について学び、自己吟味する課題も「実践神学」の重要な学びのひとつです。



山口 隆康
(やまぐち たかやす)

- ①1970年東神大大学院卒（神学修士）。独ハイデルベルク大学留学。日本基督教団正教師。1986年着任、現在、教授。
- ②研究領域は説教学、礼拝学、牧会学、教会法など日本における伝道と教会建設に取り組む実践神学。担当科目は、説教学演習、礼拝学演習、牧会学演習、日本伝道論演習など。
- ③実践神学概論、説教学演習など。



小泉 健
(こいずみ けん)

- ①1997年東神大大学院卒。独ハイデルベルク大学神学部博士課程卒（神学博士）。日本基督教団正教師。2008年着任、現在、准教授。
- ②説教学、教会建設論など。宗教改革者は教会を「御言葉の創造物」と呼びました。説教が教会を建設するとはどういうことかを、改めて探求しています。そこから教会のあらゆる営みへと課題が広がります。
- ③実践神学概論、説教学入門など。



朴 憲郁
(パク ホンウク)

- ①1974年東神大大学院卒。監理教神学大学院研修。韓国イエス教長老会神学大学院修了。独デュッセルドルフ大学神学部博士課程卒（神学博士）。在日大韓基督教教会正教師（現在、日本基督教団への宣教師）。1994年着任、現在、教授。
- ②キリスト教教育、新約神学、アジア・キリスト教伝道学。
- ③キリスト教教育概論、アジア伝道論演習、キリスト教教育特講など。



バストラル・ケア担当

ウェイン・ジャンセン
(Wayne Jansen)

- ①米ウェスタン神学大学院博士課程卒（教会学博士）。米回改革派教会正教師（現在、日本基督教団への宣教師）。2002年着任、現在、准教授。
- ②学生の相談を受けるバストラル・ケア・センターの室長です。「臨床牧会教育」を担当し、受講者が自らの個人的な課題を把握することを通し、より有能な牧会者になることが目的です。
- ③教会心理学、臨床牧会教育など。

東京神学大学 開講科目一覧

学部

★必修科目 ☆選択科目 *選択必修科目

	1年	2年	3年	4年
学際基礎科目・神学基礎科目 外国語科目・保健体育科目	【学際基礎科目】 *哲学思想史 *キリスト教と世界史 *キリスト教と文学1 世界文学 *キリスト教と文学2 日本文学 *キリスト教と芸術1 美術史 *キリスト教と芸術2 音楽史 *心理学 *社会史 *法と人権1 法学概論 *法と人権2 日本国憲法 *宗教と社会1 デモクラシーと政治 *宗教と社会2 ウェーバーとトレルチ *現代の自然観 *生命の理解とバイオエシックス *精神医学とキリスト教 *保健衛生 *情報基礎	【外国語科目】 ★英語Ⅰ ☆英語Ⅱ ☆英語実践Ⅰ・Ⅱ ★ドイツ語Ⅰ ☆ドイツ語Ⅱ 【保健体育科目】 ★体育Ⅰ・Ⅱ 【神学基礎科目】 ★キリスト教通論Ⅰ・Ⅱ ★聖書通論1 旧約通論 ★聖書通論2 旧約時代史 ★聖書通論3 新約通論・歴史 ★神学通論	1年次入学者は、原則としてこれらの科目を2年間かけて履修・修得する。 3年次編入学者の場合、神学通論を除き、基本的にこれらの科目が認定されるが、履修を奨励している。	
専門教育科目	【聖書神学関係】 ★旧約聖書神学Ⅰ・Ⅱ ★新約聖書神学Ⅰ・Ⅱ ★ギリシャ語Ⅰ・Ⅱ 【組織神学関係】 ★組織神学Ⅰ 【歴史神学関係】 ★教会史Ⅰ・Ⅱ ※3年次編入学者は、3年次に履修・修得する。	【聖書神学関係】 ☆ヒブル語Ⅰ・Ⅱ ☆イスラエル古代史 【組織神学関係】 ★組織神学Ⅱ 【歴史神学関係】 ★教会史Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ ★宗教史Ⅰ・Ⅱ 【実践神学関係】 ☆教会実習Ⅰ・Ⅱ ☆教会教育入門 ☆牧会心理学 ☆臨床牧会教育 ☆説教学入門 【専攻間共同科目】 ☆ラテン語 【神学書講読】 *英語神学書講読・聖書Ⅰ・Ⅱ *独語神学書講読・聖書Ⅰ・Ⅱ *英語神学書講読・組織Ⅰ・Ⅱ *独語神学書講読・組織Ⅰ・Ⅱ *英語神学書講読・組織歴史Ⅰ・Ⅱ	【聖書神学関係】 ★旧約聖書神学Ⅲ ☆旧約聖書神学Ⅳ ★旧約聖書釈義 ★新約聖書神学Ⅲ ☆新約聖書釈義 ☆新約原典講読Ⅰ・Ⅱ ☆新約時代史 ☆シリア語 ☆アラム語 【組織神学関係】 ★組織神学Ⅲ 【歴史神学関係】 ☆教理史Ⅰ・Ⅱ ☆アメリカ教会史 【実践神学関係】 ★キリスト教教育概論 ★実践神学概論 【専攻間共同科目】 ☆アジア伝道論演習	【組織神学関係】 *旧約聖書学部演習 *新約聖書学部演習 *組織神学学部演習 *歴史神学学部演習
教職課程科目	教職概論	教育基礎論Ⅰ・Ⅱ 宗教科教授法A・B	心理発達と教育 道徳指導法 特別活動指導法 教育的指導と相談の研究Ⅰ・Ⅱ	教育の方法と情報技術Ⅰ・Ⅱ 教職実践演習(中・高) 教育実習Ⅰ・Ⅱ



※教育職員免許状取得希望者対象

大学院

前期課程	後期課程
【聖書神学関係】 旧約聖書原典講読Ⅰ・Ⅱ 旧約聖書原典釈義Ⅰ・Ⅱ 旧約聖書神学特講Ⅰ・Ⅱ 旧約聖書学特研Ⅰ・Ⅱ 旧約聖書学演習Ⅰ・Ⅱ アラム語 シリア語 古代オリエント史Ⅰ・Ⅱ 聖書考古学 アッカド語 新約聖書学特講Ⅰ・Ⅱ 新約聖書学演習 新約聖書学特研Ⅰ・Ⅱ 新約聖書原典釈義Ⅰ・Ⅱ 【組織神学関係】 組織神学特講Ⅰ・Ⅱ 組織神学特研Ⅰ・Ⅱ 組織神学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 信条学 【歴史神学関係】 教理史演習Ⅰ・Ⅱ 教会史特講Ⅰ・Ⅱ 教理史特講Ⅰ・Ⅱ 教会史演習 英国教会史	【実践神学関係】 キリスト教教育特講 キリスト教教育特研 実践神学演習 宗教社会学演習 教会音楽 牧会心理学特講 牧会カウンセリング特研 臨床牧会教育 牧会心理学 説教学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 礼拝学演習 牧会学演習 総合特別講義 【専攻間共同科目】 アジア伝道論演習 日本伝道論演習 共同演習 【論文演習】 修士論文指導演習 旧約神学Ⅰ・Ⅱ 修士論文指導演習 新約神学Ⅰ・Ⅱ 修士論文指導演習 組織神学Ⅰ・Ⅱ 修士論文指導演習 歴史神学Ⅰ・Ⅱ
	【聖書神学関係】 旧約聖書神学特殊研究 旧約聖書文学特殊研究 旧約聖書原典特殊研究 聖書語学特殊研究 聖書考古学特殊研究 新約聖書神学特殊研究 新約聖書原典特殊研究 聖書解經学特殊研究 原始キリスト教特殊研究 【組織神学関係】 教義学特殊研究 現代神学特殊研究 現代哲学特殊研究 キリスト教社会学倫理特殊研究 宗教改革神学特殊研究 組織神学共同演習 【歴史神学関係】 神学史特殊研究 宗教改革史特殊研究 教父学特殊研究 日本宗教思想史特殊研究 【実践神学関係】 キリスト教化学特殊研究 【論文演習】 博士論文指導演習 聖書神学 博士論文指導演習 組織神学



Featured
Subject

【旧約聖書釈義】

苦難の中にも希望をもち続ける 旧約聖書の人々が今の私たちに慰める

教授 小友 聡 (旧約聖書学)



聖書のテキストをどう理解するか

旧約聖書釈義はa・bがあり、多くの場合、学部4年生が1年間かけて履修する必修科目です。内容は旧約聖書のテキストをどう理解するか、その方法論と実践です。2011年度は、前期では方法論を集中的に学びました。方法論とは、釈義の前段階に必要な旧約聖書の様式史、伝承史など、聖書の背景、聖書を読むための基礎知識とも言えるものです。そして後期で初めて、具体的な聖書のテキストにあたって、釈義を行いました。本来でしたら、ヒブル語の原典から釈義することが望ましいのですが、それは大学院に入ってから学びで、学部ではそこまで求めません。

釈義の実践では、詩編を取り上げました。授業への準備として学生に求めていることは、次回の授業で扱う詩編を読むこと、さらに有名な説教者や神学者が同じ詩編を読んで綴った黙想集にも目を通し、自分であれば同じテキストをどのように解釈して、どう語るかという関心を持つことです。授業



では、テキストの主題をはじめ、鍵となる言葉や歴史的にどのように解釈されてきたのかなどを解説し、さらに黙想について検討し、議論を深めていきます。

旧約聖書の面白さとは

旧約聖書には、まだイエス・キリストは登場しません。新約聖書とは異なる世界観の中で、イスラエル民族は、どうやって生きて行くかについてもがき、叫んでいます。旧約聖書の基礎が成立したのは、イスラエル民族が捕囚の憂き目にあった時代と言われています。国を失うとは、全てを失うこと。個人的にも社会的にも先が見えず、頼るもの何もないところで、神さまを仰ぎ、神さまに造られたものとして生きることを宣言した旧約聖書は、民族の信仰告白なのです。しかもその中に、今を生きる私たちとの接点があります。例えば、授業でも取り上げた詩編22編では、詩人は絶望的な状況を嘆いていますが、それは震災の不条理を経験し、その中で何を語るかを突き付けられている私たちにも通じます。22編の苦難に満ちた嘆きは、最後には神への讚美に変わります。苦しみの中であえぎながら、でも、希望を失わずに生きて行く。今の時代に必要なことが書かれていると思いませんか。

今、牧師の中には、旧約聖書から説教することを尻込みしてしまうような方が多いように見受けられます。会衆からかけ離れた世界だから、語っても届かないのではないかと敬遠しているとしたら、残念なことですね。どうか旧約の世界に飛び込んで、わからないなりに、もがいてほしい。そして、旧約聖書の奥深さに気づき、勉強する意欲が湧いてくることを期待しています。

学生から ヒトコト

- 旧約聖書を神学することは、エキサイティングでスリリング!「そんなあ〜」と落胆したり、「そうやって読むのか!」と目からウロコが落ちたりすることも多々あります。
- 旧約聖書は長い歴史の中で書かれているため、時代背景に

よって独特の言い回しがあったり、根ざしている生活に違いがあったりします。そういった背景を明らかにすることは難しいけれど、意義深いです。

- 旧約聖書を学ぶことで、自分も神の民の一員とされ、長い歴史の中で、現代に生きる自

分にまで聖書が受け継がれていることに気づき、大きな喜びを覚えました。

- 初めは「信仰の書」を学問的に読むことに抵抗がありました。が、揺るぎない神の権威の元にある書だからこそ、学問的に扱えるのだとわかりました。

- この授業では、福音の脈を探り当てるための道具とその使い方を教えられます。長く苦しい発掘作業を経て、命の言葉の源流にたどりついた瞬間には、感動と興奮、神さまへの讚美が溢れ出てきます。

東京神学大学の春夏秋冬

緑豊かな東神大のキャンパスは、1年中活気に満ちています。学生と教師の距離が近く、時に真剣な議論を交わします。また、学生会が中心になって行う毎日の礼拝をはじめ、運動会、全学修養会、クリスマス祝会など行事も充実。そんな学生生活の一端をご紹介します。

春



運動会



学生寮での朝食会

委員会

学生会を中心とする各種委員会が、運動会や修養会、愛餐会などの行事を企画・運営したり、学生ラウンジを整備したりして、学生生活を支え合う。中には複数の委員を兼任する学生もいる。また、学年を超えた交流も育まれる。

学生寮

キャンパス内には学生の自治による男子寮、女子寮がある。幅広い年齢層の学生が生活を

共にし、「寮の交わりによって神学生生活が支えられた」という証言も多い。授業のある日の朝には寮拝があり、寮生が交代で奨励を担当する。

クラス

学年ごとの集まりを「クラス」と呼ぶ。クラスには担任教員があり、週に1度のクラス別祈禱会で共に祈り、共に学び、助け合う。卒業後も交流は続き、キリストに呼び集められた同労者として、長く支え合う牧師たちも多い。

4月 入学式

オリエンテーション

5月 全学懇談会

学生総会

運動会

6月 博士課程後期課程学生研究発表会

ラウンジでの談笑



入学式

夏

7月 夏期伝道オリエンテーション

夏期伝道壮行祈禱会

8月 夏期伝道実習

9月 夏期伝道報告会

修士論文提出締切

日本伝道を担う青年の集い

夏期伝道実習

学部4年次と大学院1年次の夏に、約4週間にわたって行われる必修プログラム。学生は全国各地の教会に遣わされ、牧師の指導のもと、説教や聖書研究、祈禱会の奨励など、様々な奉仕をしながら伝道者としての日常を学ぶ。

日本伝道を担う青年の集い

献身を考えている若い世代を対象に、毎年9月の第4土曜日に開催される集い。開会礼拝に始まり、様々なテーマによる分団でのディスカッション、模擬授業、先輩伝道者の「証し」などがあり、神学校生活の一端を体験することができる。



日本伝道を担う青年の集い受付風景

COLUMN

「教会」に触れ、 神学校での学びの意味を知る

～夏期伝道実習を体験して

大学院1年 裴在伊 (べい ぜい)

学部4年生の夏期伝道実習で、愛媛県新居浜市にある在日大韓基督教会の新居浜グレース教会にお世話になりました。夏期伝の一番の収穫は、「教会」について具体的なイメージを掴みかけてきたことです。例えば、この教会では、日曜日と水曜日以外、毎晩30分ほどの讃美礼拝があります。牧師による開会と閉会のお祈りの合間に、讃美歌を数曲歌うといったシンプルなものですが、出席者は「一人では毎日祈りの時間を持つことは難しいけれど、教会に来れば歌を通して祈ることができる。それが恵みだ」と、とても楽しみにしています。このように、教会が生活の一部となるような「教会」の在り方を見習いたいと思いました。また、4週間の実習中に、主日礼拝で2回、教会学校で4回、説教を担当しました。説教準備を通して、自分の学びが、まだまだ足りないことを痛感すると同時に、神学校で何のために勉強するのが明確になりました。今は、もっと集中して学び、成長したいと思っています。



秋

- 10月 神学校日・説教奉仕
- 11月 全学修養会
- 11月 入試・合格者発表
- 12月 オープンキャンパス
- クリスマス礼拝
- クリスマス愛餐会

神学する

神学は“学ぶ”だけではなく“神学する”もの。その本質は、講義や実習、独習に限らず、寢食を含む生活場面すべてにおいて神の真理を追究し、ときに情熱的に、ときに冷静に論理的、批判的に、日々格闘するように神学に相對することである。



御言葉を伝える



神学校日

毎年10月の第2日曜日（派遣先の教会によって異なる場合もある）、神学生および教師が全国各地の教会に派遣されて説教奉仕を行う。同時に、祈りと献金によって東京神学大学を支えてくださる諸教会に改めて感謝する機会でもある。



クリスマス愛餐会の1コマ



- 1月 教職セミナー
- 2月 2月入試・合格者発表
- アジア伝道研修旅行
- 3月 卒業礼拝
- 卒業・修了式
- 3月入試・合格者発表

冬



2012年のアジア伝道研修旅行は台湾へ



昼休みの集い キリスト教教育研究会

教職セミナー

毎年1月、全国から教職者（牧師、伝道師）と本学大学院修了を控えた神学生たちが、3日間寢食を共にしながら一主題のもと、講演やシンポジウム、分団などのプログラムを通して今日の教会の課題を神学的に話し合う。卒業後の貴重な再研修の機会であり、日本基督教団以外の教職者も参加している。

アジア伝道研修旅行

授業で学んだアジアにおけるキリスト教伝道の課題と、アジアの現実を学生たちが肌で感じることを目的とした研修旅行が、隔年で実施されている。これまでに韓国、台湾、フィリピン、中国などを訪れ、現地の教会や神学大学と交流しつつ研修を重ねている。



卒業・修了式



～データと座談会で紹介する素顔の神学生～

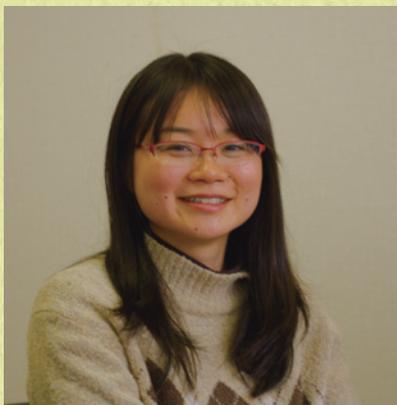
主の招きに応じて

神学生ってどんな人たち？ 神学生になる前は何をしていたの？ 勉強が大変と聞けけれど、実際はどうか？ 神学を学ぶ喜びって何？……入学あるいは編入学1年目のフレッシュな学生の声と、2011年度の学生のデータでお伝えします。



入学してわかった 東神大の実態!?

中西：入学前の噂は「東神大は勉強が大変」「神学生は四六時中机にかじりついているらしい」というもの。また、「寮生活は過酷」とも聞いていて、相当覚悟していました。ところが、2011年に諸教会の皆様のご



中西 理恵 (なかにしりえ)

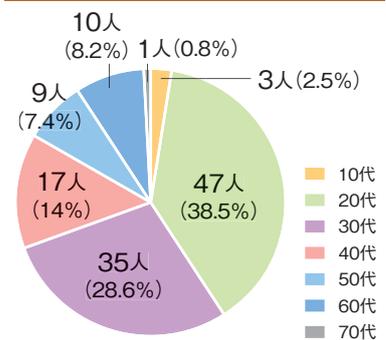
学部3年生。1978年生まれ。10年余りの社会人経験の中で仕事や生活に悩んだ時期に、自分の人生の意味は神さまの側にあることを示され、祈りの中で召命を与えられ編入学。

支援のおかげで、寮の部屋にエアコンがつけましたし、インターネットもできて快適です。授業は大変ですが、クラブ活動も盛んで、学生生活をまるごと楽しんでいます。

馬場：四角四面な堅物ばかりかと思っていましたが、面白い人が多いんですよ。経歴も前職が船乗りとか、海外で日本語教師をしていたとか。個人的に驚いたのは、出身教団や教派のバックグラウンドの多様性ですね。僕はキリスト教主義の学校に行ったことがなく、自分の所属教会以外の人と触れ合う機会があまりなかったため、新鮮です。例えば聖餐式にしても、メソジスト系の教会出身者は「前^{あずか}に出て与る」というし、改革長老派系の教会で育った僕は「配られる」のが当然と思っていた。その違いが神学的なルーツに基づくことを学んで、自分の教会について改めて考えることができました。そういう経験がすごく面白いと思います。

関本：正直、こんなに勉強させられ

学生の年齢構成



るとは思っていませんでした。特に3年次編入生は、この1年間は神学の基礎からギリシア語など語学も含めて授業がびっしりです。歴史など記憶力が必要な授業もあれば、哲学的思考が必要なものもあり、60代の脳をフル回転させています。同じ世代の先輩には「とにかく立ち止まるな。最初の1年間は余計なことを考えずに走れ。走り抜いて4年に進級できれば、あとは勢いでなんとかなる」とアドバイスをもらいました。**馬場：**いや20代だって、大変です。特に編入して教職課程を取ったた

め、3年生の前期は1週間に19コマも授業を受けていました。でも、何とかはなります。

狩野：3年次編入の方の1年目と比べると、1年生から入った僕たちは比較的楽です。まだ、神学の大海に漕ぎ出す以前に、水たまりでパシャパシャやっている感じ。

江口：確かに「聖書通論」や「キリスト教通論」など神学の概要を学び始めたばかりですから。

狩野：その神学関係の授業こそ、東神大に来てやりたかったことなので、苦しいどころか毎回楽しくてワクワクします。その他の科目もキリスト教に関連したものが多いため興味をかき立てられます。

苦しいのに楽しい神学の学び

江口：視覚障がい者にとって、大学に入学すること自体が挑戦です。まず、授業準備に膨大な時間がかかります。例えば、課題図書は点訳があるかどうか調べたり、データベースからダウンロードして準備したり、なければ事前に入手したものを学外の友人に頼んでスキャンしてもらい、自分のパソコンの

読み上げソフトを使って読んだり。加えて、観念の理解が難しいのです。当たり前ですが、聖書は目が見える人の視点で書かれています。例えば「世の光」という聖句ですが、私のような先天的な視覚障がい者は、「光」がイメージできません。それに、暗闇の中で生活することを訓練されていますから、光がなくても困らないわけです。その状況で、光とは何かを考える。温かみがある、心の中に何か生まれるものがあるとか、少しずつ理解していった自分の中で変換し、聖書の御言葉が見えてきたように思う時、すごく感動します。それが今、私にとっての神学であり、学びの原動力です。でも、そこに留まっているだけではだめ。どのように伝えるかがこれからの課題です。

中西：神学を学ぶことはとても刺激的です。確かに自分はキリストを、神さまを信じてきたのだけど「信じるとは何か」が問われます。自分なりに思索して「こうかな?」と思っても、調べるとすでに過去の人よりもっと深く考え、言語化し、対話を重ねてきている。そういうふうに関連する歴史の中で、いま、私たちが学んでいるということも面白いですね。広くて深い学びです。

関本：サラリーマン時代も、仕事を通して学ぶことはたくさんありまし



江口 勝利 (えぐち しょうり)

学部1年生。1968年生まれ。友人に誘われ、とある家庭集會に参加。その後、教會に通い受洗。3年後に召命が与えられるが、全盲である故に思い悩み、10年間の心身の葛藤を経て入学。

た。でも、目標が達成できたかとか、予算をどう確保するかなど、割り切れるものばかり。ところが神学となると、「AイコールB」などと単純には割り切れません。何よりもまず、言葉がわからないため、先生が何を言っているのか、神学書に何が書いてあるのかも掴みようがありません。今はひたすら言葉を調べ、概念を理解して自分のものにする状態にもがいている状態です。

江口：おかしいですね。皆ウンウン唸って苦しんでいるのに、同時に楽しんでもいるのですから(笑)。

馬場：学びながら、神さまのことをずっと考えていられますからね。試験と課題さえなければいいんだけど……(笑)。

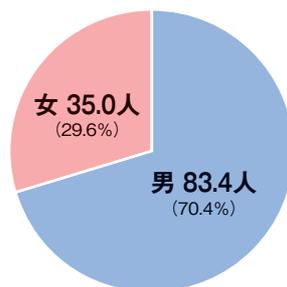


馬場 勇樹 (ばば ゆうき)

学部3年生。1987年生まれ。法律家を目指して法学部で学ぶが、魂の救いは法的な判断による地位の回復や金銭の返還では得られないことに気づき、大学卒業と同時に編入学。

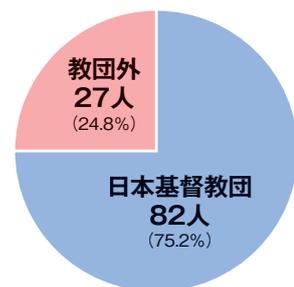
男女比

直近5年間の在籍学生の平均男女比



入学時出身教会

東神大入学時の出身教会
(大学院博士課程後期課程在籍者を除く)



神学生ならではの 恵み、喜びとは

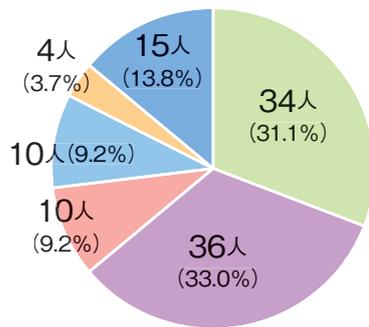
関本：東神大の素晴らしいところは、10代から60代まで幅広い年齢層の学生が集まっているにも関わらず、クラスが団結していることですね。以前、避けられない用事があって授業を休んだ時、事前に頼んでい



関本 信一 (せきもと しんいち)

学部3年生。1948年生まれ。サラリーマンを定年退職後、教会の牧師に献身を薦められ一度は断った。しかし、「これまでの人生はリハーサル、これからが本番」と思い直して編入学。

入学前の学生の職業



例えば、こんな職業でした…

新聞記者、日本語教師、
スポーツインストラクター、銀行員、
サービス接客業(ホテル)
船舶関係教官、漫画家、看護師、
幼稚園教諭、教員(大学・中高)など。

- 高校生・学生
- 会社員
- 教育・福祉関係職
- 医療・福祉関係職
- 他教派教師
- その他(含自営業・公務員)

なかったのに思いがけずノートのコピーをもらいました。とにかく「皆で支え合って伝道者になろう」と目的意識を共有しているため、世代を超えた友情が生まれるのだと思います。

中西：私の喜びは毎日の礼拝です。勉強の苦しさや神学生として相応しいのかとか、周囲に認められたいといった悩みや気負いも、御言葉を聴き、讃美する中で神さまに委ねることが出来ます。そういう意味でも、礼拝に支えられています。

狩野：僕もそうです。礼拝で、一日の気持ちが引き締まります。

江口：先生方や職員の皆さんは、初めて視覚障がい学生を受け入れて戸惑うことも多いと思いますが、私自身、前例がないのは非常にありがたいです。前の人々の例が、私に当てはまるとは限らないので……。と言いつつ、私が前例になってしまいました(笑)。

馬場：僕の場合は、周囲が全員神学生で、神さまのこと、これからの伝道のことなどを真剣に話し合えるこ

狩野 信之佑 大学1年次後期時間割

	月	火	水	木	金	土	日
1限	自由時間 (勉強・休養など)	英語I	キリスト教通論II	現代の自然観	体育II	自由時間 (学内礼拝 参加など)	教会にて 奉仕
2限		一般時間*		哲学思想史	ドイツ語I		
昼休み				キリスト教教育研究会			
3限		聖書通論2旧約時代史			ドイツ語I		
4限		法と人権2日本国憲法	英語I	キリスト教と芸術2音楽史	キリスト教と世界史		
5限			教職概論		情報基礎		
6限	コーラス部練習	祈禱会		コーラス部練習			

馬場 勇樹 大学3年次(編入生)後期時間割

	月	火	水	木	金	土	日	
1限	自由時間 (掃除、洗濯、 趣味の他、 教派の研修会など)	旧約聖書神学II	宗教科教授法B	教会実習II	ギリシャ語II	教会にて奉仕 (教会学校・ 礼拝・ CS教師会など)		
2限		一般時間*	神学通論	勉強もしくは談笑	組織神学I			道徳指導法
昼休み				キリスト教教育研究会	ゴスペル同好会			
3限		組織神学I	勉強もしくは談笑	教育的指導と相談の研究II	教育基礎論II			
4限		教会史IV	組織神学II	教会史III	教会史V			
5限			教職概論	図書館で勉強	図書館で勉強			
6限			祈禱会	説教塾				

■ は授業／授業がある日の1限と2限の間には、クラス別祈禱会や学内礼拝が行われる。※一般時間では学内外講師による講演などが行われる。



狩野 信之佑 (かりの しんのすけ)

学部1年生。1992年生まれ。病気で友人ができにくかった小学生時代、幼稚園の友人が通っていた教会に行くように。以来、教会で育まれ自然と献身の思いが与えられ高校卒業後に入学。

とですね。でも同時に、教会用語や神学用語ばかりで話してしまうことも懸念しています。僕たちは「福音を伝える」ために招かれて学んでいるのですから、キリスト教を知らない人にも伝わる言葉を身につけてお

くことも大切だと思います。

関本：私は63歳で入学したので、大学院を卒業して、3年後に接手を受けられるとしても、牧師になる時は70歳近くになってしまう。たとえ健康でも、あと何年間、神さまのご用を果たせるかと考えて悩んだことがあります。でも、前期の学生懇談会の時、近藤学長の言葉を聞いて慰められ、励まされました。それは、「皆さんは神学校に入った時から、すでに伝道者として働かだしている」という言葉です。一人前になってから、神さまとの仕事が始まるわけではない。今、もうすでに始まっている。それが一番の恵みですね。

江口：私はすぐ目の前に何かがあっても、手に取れません。だから、与えてくださるありがたさを人一倍感じています。イエスさまが「はい」と手渡してくださる、この喜び！

これが神学生である喜びです。それを、これからどのように伝えたらいいのか。自分でどうこうするのではなく、学ぶことによって、キリスト者としてキリストの香りを放つようになることを願っています。

編集者からのメッセージ

新しい『学校案内』をお届けいたします。この『学校案内』は東京神学大学を皆さんに知っていただきたいという切なる願いから作成されました。本学はキリスト教会の牧師、伝道者を養成する大学です。この『学校案内』をお手にとって、「私も神さまから呼び出され、招かれている」と感じていただけたら、とても嬉しく思います。伝道への志をおもちの方は、どうぞお気軽に本学教務課入試係にご相談ください。また、本学をすでにお支えくださっている諸教会の皆様には引き続きご支援をお願いいたします。

2012年5月

東京神学大学後援会の働き

東京神学大学に入学した神学生は、日本基督教団をはじめ、各教団・教派の教職・信徒の皆さんの大いなる期待と夢をもって迎えられ、また背後でも支えられていることに気づきます。具体的な現れは、後援会という組織を通して、日本全国にある教会やキリスト教の学校・諸団体や教職・信徒の皆さんから寄せられる様々な形の献金・寄付金です。

東神大の後援会活動は学校の発足と合わせて始められ、今日まで絶えることなく財政面で東神大を支えてきており、最近では大学の年間収入の49パーセントが献金・寄付金で賄われています。この負担率は欧米の大学のそれには及ばないものの、日本国内の他の大学のそれと比べれば跳びぬけて高い率です。神学校の特別な体質と言ってもよいでしょう。

しかし、これは決して危惧することではありません。学校開設当時から教会の教職・信徒の皆さんが、神学校の働きのために祈り支えようとされている、その息遣いがここに現れているのです。教会と神学校とは正に車の両輪です。

東神大の後援会は、日本基督教団の教区にほぼ対応した形で、地域ごとに地区後援会が組織され、教会・信徒の皆さんに献金を呼びかけております。特に2007年からは10年計画を立て一層の拡充を図る運動を進めており、大きな目標としては、年間歳入の56パーセントを献金・寄付金でお支えできることを目指しています。地区後援会では、随時、講演会や報告会、また夏には神学生の夏期伝道実習の受け入れに関す

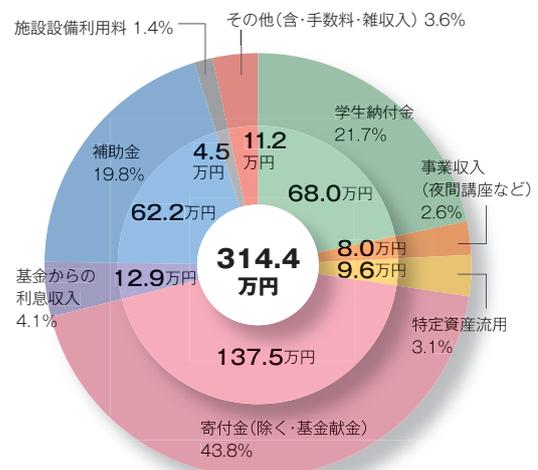
る支援も行っております。

支援者の皆様には、東神大を一層身近に覚えていただき、祈り、かつご協力いただけるよう願っています。

(後援会長 銀座教会信徒 岩澤 嵩)

東神大・神学生1人当たりの費用と財源

(2007～2009年3年間平均費用で算出されています)



在学生数平均・118名；学生平均1人当たりの費用・3,144,000円



東京神學大學

〒181-0015 東京都三鷹市大沢3-10-30

TEL:0422-32-4185

FAX:0422-33-0667

E-mail kyoumuka@tuts.ac.jp

URL <http://www.tuts.ac.jp/>

東京神学大学では毎年11月・2月・3月に入学試験を行います。学生募集要項の請求やお問い合わせは、教務課入試係まで。



- JR中央線 三鷹駅南口
小田急バス2番乗り場より「国際基督教大学」、「調布駅北口」、
「武蔵小金井駅」いずれも「西野」下車 徒歩5分
- JR中央線 武蔵境南口
小田急バス2番乗り場より「国際基督教大学」
3番乗り場より「狛江駅北口」
4番乗り場より「吉祥寺駅」、いずれも「西野」下車 徒歩5分